

鈴木明彦¹・圓谷昂史²：2015年秋における北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着
 Akihiko SUZUKI¹ and Takafumi ENYA² : Stranding record of the common paper nautilus *Argonauta argo* on the coast of Yoichi Bay, Hokkaido in the autumn of 2015

アオイガイ *Argonauta argo* Linnaeus は、日本列島周辺の暖流域で浮遊性生活を送るカイダコ科のタコで、その貝殻は海岸にしばしば打ち上げられる(石井 1999; 中西 1999)。北海道の日本海側では、2005年以降数年おきに、アオイガイの大量漂着が確認された(志賀 2007; Suzuki 2011; Suzuki and Enya 2013)。今回、北海道の余市湾沿岸で、2015年秋にアオイガイの漂着を確認したので報告する。

余市湾は、余市町東部～小樽市西端に位置し、日本海に面している。この付近には東西方向に中粒砂主体の砂浜海岸が発達する。2015年10月中旬～11月上旬にかけて、余市湾沿岸の砂浜海岸で、週に1度(合計5回)漂着アオイガイの調査を行った。今回採集された貝殻は3個体のみで、軟体部や卵塊を伴うものはなかった。これらは、汀線付近に木片や漂着ゴミとともに打ち上げられていた(図1, 図2)。

標本1(図1)は、完全な貝殻で、殻長102.6mm, 殻高60.9mm。標本2(図2)も、ほぼ完全な貝殻で、殻長79.2mm, 殻高52.7mm。一方、標本3は殻頂部だけの不完全な標本である。貝殻は薄く白色で、殻頂部は内巻きになっている。放射肋は細かく、その末端は突起になり縁の両側に対になって並ぶ。また殻頂部は黒色を帯びる。

2015年に得られたアオイガイは3個体のみなので、漂着が認められた記録にとどめ、漂着と海洋環境の関係(圓谷・鈴木 2015; 鈴木・圓谷 2016)については、今後の大量漂着の機会にゆずりたい。



図1 余市湾沿岸に打ち上げられたアオイガイ



図2 余市湾沿岸に打ち上げられたアオイガイ

引用文献

- 圓谷昂史・鈴木明彦. 2015. 2010～2014年において北海道余市湾沿岸に漂着したアオイガイ. 北海道開拓記念館研究紀要 (43): 27-36.
- 石井 忠. 1999. 新編漂着物事典. 380pp. 海鳥社, 福岡.
- 中西弘樹. 1999. 漂着物学入門. 216pp., 平凡社, 東京.
- 志賀健司. 2007. 北海道石狩湾岸におけるアオイガイの大量漂着. 漂着物学会誌 5: 39-44.
- 鈴木明彦・圓谷昂史. 2016. 2014年秋における北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着. ちりぼたん 46: 296-301.
- Suzuki, A. 2011. Mass strandings of the common paper nautilus *Argonauta argo* along the coast of Yoichi Bay, Hokkaido, Japan. Journal of Japan Driftological Society 9: 7-11.
- Suzuki, A. and Enya, T. 2013. Mass strandings of the common paper nautilus *Argonauta argo* along the coast of Yoichi Bay, Hokkaido, in the autumn of 2012. Journal of Japan Driftological Society 11: 1-7.

(Received Feb. 1, 2016; accepted Mar. 1, 2016)

¹北海道教育大学札幌校地学研究室 〒002-8502 札幌市北区あいの里5-3-1

¹Department of Earth Science, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education, 5-3-1 Ainosato, Kita-ku, Sapporo 002-8502, Japan

²北海道博物館 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

²Hokkaido Museum, 53-2 Konopporo, Atsubetsu-cho, Atsubetsu-ku, Sapporo 004-0006, Japan